

成東高校同窓会報

人の顔



同窓会長
清水新次
(高15回)

一卵性双生児などは別にして世の中に同じ顔をした人は存在しないとされておられ、人の顔は、その人だけの固有のもので。

人の顔も年代（幼年期、少年期、青年期、壮年期、老年期）により大きく変化します。

乳幼児の顔は、誰でも愛くるしく、かわいらしさに溢れており、また、十代から三十代の顔は、張りがあつて若々しいのですが、人としての重さに欠け、少し物足りない感じがします。

「人は四十歳になつたら自分の顔に責任を持つ」という格言があります。これは、四十代になると社会的にも家庭的にもその役割、責任が重くなり、自然と顔や生活態度にも落ち着きや変化が

現われてくるということでしょうか。そして、五十代・六十代の壮年期、七十代の老年期ともなれば、その人特有の歴史が刻まれた存在感のある顔に自然となつてい

ると思われるのです。このように貴重な人の顔ではありませんが、これを多く覚えるということになるかと容易ではありません。

会合や宴会などで笑顔で近づいて来て「この前はどうぞ」と親しく挨拶され、誰だか思い出せない場合は大変困ります。「どなたでしたっけ？」と聞く訳にもいかず適当に受け流して、相手の話の内容などから必死に思い出そうとしますが、当然受け答えもそつたなくなる訳で、相手は不快な印象を持つことになるでしょう。

日本人の礼儀として挨拶の時頭を下げるのが通例ですが、頭を下げる前後に失礼にならない程度に相手と目を合わせ、顔をしっかりと確認することが大切だと思います。そして、できればその人の顔の特徴やその時の話題などを貰った名刺の裏などに記しておく

ということは、その人に対し極めて失礼だと思うのです。自分にとって大切な人である場合は、その人を忘れることは決してありません。私も以前会ったことのある人から「初めまして」と名刺を差し出された時は複雑な気持ちになりました。しかし、同時に覚えてもらう自分の努力が足りなかった

など反省もしました。多くの人の顔、名前を覚えることは難しいですがとても大切です。そして、自分を覚えてもらう工夫、努力は更に大切だと思うのです。

今年の冬は特に寒い日が続きましたが、春の本格的な訪れは間近です。四月七日（土）には母校で恒例の「観櫻会」が予定されています。できるだけ多くの会員が参加され、世代、年代を超えて交流を深め、互いに顔と名前をしっかりと覚えていただき九十九同窓会員としての絆をより強固にして

いただくことを期待しています。会員の皆様の今後ますますの御健勝、御活躍を心からお祈り致します。



漫画家 立原あゆみ氏作品「二年冬」 ペンネーム 立原あゆみ氏より寄贈（本名 市川洋一氏 高17回）

第8号

2018年3月1日

発行
成東九十九同窓会

編集責任者
齊藤 功(高22回)

印刷 (株)サラト

学校規模

クラス数	21クラス
(各年次)	7クラス
生徒数合計	847名
男子	452名(53.4%)
女子	395名(46.6%)
卒業生数	
合計	29,293名
旧制中学校卒	4,620名
併設中学校卒	545名
新成高等学校卒	
	24,128名

(平成30年3月1日現在)



第112回 九十九同窓会 定期総会報告



平成29年度の第112回成東九十九同窓会定期総会が、去る平成29年8月6日(日)午前10時より、本校百周年記念館にて開催されました。

例年通り、八月第一日曜日午前十時に定期総会を開催いたしました。今年度は、高校第二十七回卒業生の皆さんにご案内を差し上げ、当日の参加者は五十三名を数えました。内容は左記の通りです。

記

- 一 開会挨拶 谷本篤副会長
- 二 清水新次同窓会会長挨拶
- 三 上代真澄校長挨拶
- 四 議事
 - (1) 会務・会計報告
 - (2) 監査報告
 - (3) 会報発行について
 - (4) 役員改選について
 - (5) その他
- 五 講演

若梅明彦氏(高27回)

ソフトテニスで日本代表として活躍され、教員として成東高校にも勤務された若梅明彦さんのお話を伺いました。概要は別記事をご参照ください。

六 閉会挨拶 真壁力副会長

その後、地元山武市成東の「米作」に席を移し、懇親会を和気藹々と執り行いましたことをご報告申し上げます。

(資料)

一、平成二十八年度会務報告

二十八年

六月二十三日 会計監査

同 役員会

八月七日 同窓会総会

九月十七日 東京九十九同窓会

十一月九日 千葉県庁九十九会

十二月十七日 横芝九十九同窓会

二十九年

一月十四日

三月七日 同窓会入会式

三月八日 卒業式

(卒業生二八一名に卒業証書)

ホルダー贈呈)

二、平成二十九・三十年度

同窓会役員一覧

- | | | |
|-----|-----|----------|
| 会 長 | 清水 | 新次(高15回) |
| 副会長 | 谷本 | 篤(高13回) |
| 副会長 | 布留川 | 信行(高20回) |
| 副会長 | 真壁 | 力(高19回) |
| 副会長 | 野山 | 敦子(高35回) |
| 副会長 | 前嶋 | 康夫(高24回) |
| 副会長 | 上代 | 真澄(高28回) |
| 幹 事 | 金田 | 重興(高15回) |
| 幹 事 | 内藤 | 光雄(高21回) |
| 監 事 | 西川 | 泰雄(高11回) |
| 監 事 | 岡村 | 新吉(高11回) |

総会のお誘い

同窓会総会は毎年八月の第一日曜日です。還暦を迎えられた方々へは直接ご案内状を送らせて頂いています。今年度は昭和五十一年卒業(高第28回、理数第3回)の方にご案内します。当日、学年同窓会も企画しております。ふるってご参加ください。詳細は本校のHPをご覧ください。

<http://cms2.chiba-c.ed.jp/narutou-h/>

講演記録

私とソフトテニス

若梅 明彦 (高27回)



ボールを取りに来て、ずっと仲良く遊んでいた先輩でしたので、挨拶をしたら「おお、ちよっと来いよ」と言われて、そのままテニスコートに一步足を踏み入れてしまったわけですね。

そしたらそこに、椅子に座った監督の先生がいらっしやいまして、そのかたが本校の第二回卒業生の鈴木利昌先生でした。そして先輩が勝手に「先生、新入部員ですのよろしくお願ひします。」と先生に言っただけです。

ね。私は一言もしゃべっていいのに。そしたら先生も「おお、しっかりやれよ」と。それからソフトテニスを始めることになりました。

【競技を始めたきっかけ】私がソフトテニスを始めたときは「軟式庭球」という名前でしたが、正直言ってこの競技をやるという意志は全くありませんでした。小学校の時に体操、陸上、水泳、野球とやっていたんですが、私が八歳の時、東京オリンピックがありまして、それを見て中学では器械体操をやりたいと思い、私は出身が横芝なので、中学校の入学式に横芝中学校の体育館に行きました。しかし、横芝中には体操部らしきものは全くなく、じゃあ今まで経験していた中で野球部を見に行こうと向かっていきました。体育館から野球場へ行く間にはテニスコートがありまして、テニスコートの脇を通過してこうとしたとき、たまたま小学生のとき遊んでいた先輩が飛んできたテニス

あつて、強いチームワークが生まれました。本当に仲間にも恵まれて、先輩達の成績に負けなようにしようとしてテニスに明け暮れた日々でした。そして、厳しかった一人の先輩にはとても感謝しています。

【高校時代】高校に入学した段階で、もう一人素晴らしい先生とお会いすることになりました。藤原伸二先生です。残念ながら若くしてお亡くなりになってしまいました。私が一年生の時、藤原先生が赴任してこられたので、これも運命かなと思います。

その当時は先輩達が強くて、私もレギュラーで使っていただけで、千葉県の団体で優勝し、関東大会へ出場しました。

関東大会でもどういうわけが個人でベスト16になりました。それがきっかけで強化指定選手になりました。そのときに藤原先生に呼ばれて、「聞きたいことがある。お前さ、テニスで日本一になるのと、勉強で日本一になるのどっちがいい。」と言われたんです。即答で「テニスです。」と言うと、「そうか、分かった。頑張れよ。」と…。私はポジティブな方だったので、一年でこんなことを言われるなら、二年、三年と頑張ったら、もしかしたら日本一になれるのかなと勝手に考えたんですね。

二年生の時には県で優勝して、関東大会でも優勝。関東大会で優勝した時、関東大会の前々日から全くボールが打てなくなりまして、ネットを超えなくなっていました。テニスでは初めて悔しくて泣きました。

怖くて、大会の前日も明け方までラケットを振っていました。その状態で試合に行ったら一試合目に球が入ったんですね。その調子でどんどん勝ち上がっていききました。いまだにあれは奇跡的なことだったなと思つています。またそれが自信になりました。

そして、インターハイにも出場しました。三年の時のインターハイで決勝までいきまして、結果的には二位だったんですけども、準決勝の時に痙攣を起こしまして、ラケットを握ったら痙攣という状態でした。全国を取

るには体力が足らなかつたなと。そのとき凄くショックを受けました。表彰式後、病院に運ばれましたが、風呂等チームメイトの助けをもらって、翌日の団体戦には出場して第五位という成績を残しました。インターハイも本当は優勝したかったんですけども、このことがまた次につながっていったのかなと思つています。

【大学から現在まで】中京大学に入学すると、四年生だった前

田さんとペアを組んで全日本学生選手権に優勝をしまして、注目されるようになりました。そして大学一年生から全日本のナショナルチームにも入っていたので、三十四歳まで全日本の代表というところで選手として国際大会も何度か行かせていただきました。一番印象に残っているのは世界選手権第三回、韓国のテグでの大会です。団体戦で優勝することができましたが、そこが一番悲惨だったなと思います。「食中毒があるから水は絶対飲むな」ということで、食べ物も水も普段の五十倍ぐらい神経を使いました。しかし、残念ながら日本の選手団が泊まっているホテルから食中毒が出ました。救急車で二十人ぐらい運ばれました。日本の選手団もほとんどダウンでした。点滴を打ってやっと立っていられる状態でしたが、結果的には試合は延期されず、試合に出ました。韓国から帰ってくると体重が十一キロも減っていました。帰ってきたらすぐに病院に行つて一ヶ月ほど病院通いでした。それから二週間ほどで全日本選手権があったのですが、幸いにして優勝しました。二連覇となりました。今思えば、選手としては日本

のほとんどのタイトルは取らせていただきました。室内の大

会、外の大会とあるのですが、ほとんどの大会で第一位ということで名前が残っています。これも家族の支えのお陰と感謝しています。さらに、仲間はもちろん、支えて下さった皆さんのおかげだと思っております。

教員として成東高校にも戻ってくるのが出来ました。成東に来て驚いたのは、生徒の時にもお世話になった先生方がたくさんいらつしたことです。参ったなというのが正直な感想でした。教員として戻ってきたというのが凄くプレッシャーで、いいのかなというのがありました。しかし、母校に戻って教員としてやれたのも高校時代にお世話になった先生方のお陰で、今の自分があるのだと心から感謝しております。また、指導者として子ども達も本当に頑張ってくれまして、県の団体でも優勝して数々の成績を出すことが出来ました。生徒達にも心から感謝しています。

全日本の代表だったときは、色々な刺激を受けました。全日本で優勝したときに大変名誉な日本スポーツ大賞という賞をいただきました。その表彰式のとき、隣にいたのが山下泰裕さんだったんです。二時間ぐらひ話をしました。自分の種目はオリンピック競技ではないけれど、

選手として目標に向かって取り組んでいる考え方は山下選手と変わらないなと思ひ、自分も頑張ってきて良かったな、山下選手ともお話し出来て良かったなと痛感しました。そこで改めてこの競技に対してしっかりと自信を持つて最後までやらなくちゃいけないなという気持ちが強くなりました。選手としても指導者としても貴重な経験をさせて

いただいております。これから私が自信を持ってやってきたソフトテニスに少しでも恩返しが出来たら良いなと思つております。どんなに年を取つても情熱というものは大事だと思つています。ソフトテニスで頑張っている若い世代の選手にも継承していきたいなと思つています。

講師略歴

若梅 明彦 (わかうめ あきひこ) 氏

全国高校団体選抜大会優勝、全国総体団体4位、個人2位等、成東高校のソフトテニス黄金期を築いた。全日本総合2連覇、世界大会団体優勝等、全日本メンバー、女子ナショナルチームのコーチとしても活躍された。

東京九十九同窓会

昨年九月十六日(土)、東京丸の内「日本工業倶楽部」で恒例の講演と懇親会が催されました。

講師は櫻井秀勲氏(高一回)、『週刊誌「女性自身」』の発行部数を飛躍的に伸ばした伝説の編集長です。「女学」の権威として、人との関わり方ひいては生き方の要諦を、ユーモアを効かせて洗練とお話しくださいました。

また櫻井氏は、少年時代の太宰治との邂逅に始まる、多くの文学者との深い親交も持ち、経験談に聴き入る参加者からは感嘆の溜息が洩れることしばしばでした。

そして風土が人の身に及ぼす影響の大きさにも言及されました。ご自身も、毎日食べている千葉産の鰯と落花生が健康の源であるとのこと。驚くばかりの若さと朗らかな活力を目の当たりにしただけに、参加者の心を揺さぶるメッセージでした。

講演の後は懇親会、今回は大学生三名も参加したのですが、立食の気兼ねのなさを人の輪に加わり、世代を越えた話の花を咲かせていました。

次回は来る九月八日(土)正午より日本工業倶楽部で開催予定です。まだご参加経験



のない方もどうぞ足をお運びください。

【東京九十九同窓会事務局】

TEL: 03-5298-1361
FAX: 03-5298-1361
E-mail: shina@ten-inc.co.jp

九十九同窓会 八街支部

昨年十一月十二日(日)、八街市内の「やまもと」にて八街支部の総会が開催されました。

八街支部は伝統ある草分け的存在なのですが、このところ集まる機会を持てずにいました。三年ぶりのこの日は十五名ほどの出席があり、旧交を温める良い機会となりました。

八街地区出身・在住の方はどうぞご一報ください。次回より催しのご案内を送ります。

【八街支部連絡先】
谷本 篤(高13回)

TEL: 043-445-4023

県庁九十九会

昨年十一月十五日(水)に、プラザ菜の花にて恒例の催しが開かれました。当日は、来賓の清水同窓会長、上代校長をお迎えし、総勢五十九名で楽しく語り合い、仕事の疲れを癒やすひとときを一緒にしました。

横芝九十九会

横芝九十九会の第四回総会が、昨年十二月九日(土)に横芝光町「丸七」にて行われました。

議題として、内規改正・役員人事について協議され、全会一致で承認されました。

その後、懇親会が行われ、一年ぶりの再会を喜ぶとともに、年代を超えて先輩や後輩と母校について語り合うことができ、楽しいひとときを過ごしました。



【横芝九十九会事務局】

遠藤亮一(高23回)

TEL: 0479-821-3160

山本明男(高23回)

TEL: 0479-821-3243

高蝶政道(高27回)

TEL: 0479-821-5292

本田和夫(高30回)

TEL: 0479-821-6442

熱田雅之(高30回)

TEL: 0479-821-1248

九十九同窓会 大平支部



昨年十二月二十一日(木)、「シーフードレストラン魚屋」に懐かしい顔が集まりました。上代校長を囲んで思い出話に花が咲き、和気藹藹のあたたかい冬の日となりました。

千葉県警察九十九会

一月二十日(土)にペリエ七階のBルームにて、千葉県警察九十九会の総会および懇親会が開催されました。インフルエンザ大流行のさなかでしたが、清水同窓会長、上代校長、県庁九十九会からの来賓もお迎えし、六十名の参加を得て、和やかに語り合うことができました。

書籍寄贈の御紹介

本校では寄贈いただいた御著書を同窓生著書として図書館に配架しております。

今年度も6名の御寄贈をいただきました。御紹介をもって御礼に替えさせていただきます。誠にありがとうございました。

○真野孝夫氏

(旧職員・昭44~48)

・宮本治著『囚われの壁』

近代文芸社、1984

(宮本治氏も旧職員・

昭44~49)

・同『現代語訳 舞姫』

私家版

・他学校刊行物2点

○今井秀治氏(高2回)

・旧職員中西三郎氏(昭23~

51)関係写真等資料

○斎藤親載氏(高3回)

『インド人に学ぶ』

学生社、2007

○土屋正守氏(高11回)

『成東高校野球部に捧げた青春 回想録』

私家版、2015

○鈴木克久氏(高14回)

『幕末新徴組始末 峠越え』

安藤書房、2017

○畑中雅子氏

『遙かなるブラジル』

与島環得(高7回)

国書刊行会、2017

平成二十九年の春の叙勲で、九十九同窓会会長の清水新次氏が瑞宝小綬章を受章されました。慶びとともにご報告します。

ドラマでは分からない「役人」の仕事



清水新次同窓会長

成高生に限らず、高校生の公務員志望熱は盛んになっています。大学一・二年生を対象とした就職志望調査でも、地方公務員と国家公務員が二年連続人気一、二位です。にもかかわらず、「安定」のイメージばかりが強く、公務員の実際の仕事については、意外に知られていません。そこで、今回は、三十七年間県職員としてご勤務され、この度、瑞宝小綬章を受章された清水新次同窓会長（高15回）に、公務員の仕事の実際について、伺ってみました。

【高校時代のこと】
—— 高校時代は、文理別クラスというのありましたか？
なかつたですね。ちょうど当時、進学クラスが作られてね。私はそこに三年間在籍していましたが、文理は一緒でした。
—— 現在も続く進学クラスのルーツですね。高校時代印象に残っていることは何ですか？
一番の思い出は担任の熱心さです。川島（亨）先生という英

語の先生でした。とにかく熱心で、自習になると、すぐに教室に入ってきて、英語の授業をするわけです。だから、教科書はすぐに終わってしまつて、三年生の時は受験対策に別のテキストを使つてました。力がつきましたね。
—— それから図書館ね。本を読むのが嫌いじゃなかつたから。
—— 旧校舎の図書館は陽が当たらなくて。
そうそう。僕は遅刻が多くてね。で、教室に遅れて入ると、先生に怒られるので、図書館に潜り込んで、本を読んでました。もししたら、誰が告げ口したのか、図書館出入禁止になつちやつて。ほら、そういうのって流行しちゃうじゃないですか。
—— 悪しき風習を断つために出入禁止になつた……
でも読書感想文のコンクールで入選して、青木（慶成）先生にほめられたこともあります。
【東北大学から県庁へ】
—— 卒業後、東北大を経て、千葉県庁に入られるわけですが、最初のご赴任先は？
印旛支庁でした。いろいろやりました。貯蓄推進という仕事もやりました。楽しかった記憶

がありますね。
—— 県庁にお勤めになつて印象に残っている仕事はありますか。
三十七年間の役人生活で、大変だったことは三つあります。まず、選挙事務。選挙係長を比較的長くやつたのですが、これがいちばんの思い出です。衆議院選挙のように、選挙時期がわからないものもありますから、いざ選挙となると、準備に毎日徹夜ということになります。またミスが出来ないのでね……。
「金権選挙」の時代でしたから、いろいろなことがありました。あれを経験したので、ひるんだり、驚いたりということがなくなりました。
—— 裏方として大変な苦勞をされたわけですね。
今でも選挙を見ると、誰が勝つか、まずわかるんですよ。
—— 高齢化対策推進課の初代課長もされたとか。
「千葉県福祉のまちづくり条例」を作つて、高齢者や障害者にやさしいまちづくりをしようとした。
その時、実態を自分たちで理解しようと、職員が車いすに乗つたり、眼かくしをしたりして、駅から県庁まで実際に歩いてみました。そうしたら、行けないんですよ、県庁まで。
—— バリアフリーという概念が広がつてなかつた頃だから……

路上に荷物が置いてあつたり、段差があつたりね。こりゃひどいということ、道路や信号の整備につながりました。
高齢者や障害者が、いちばん困つていたのは、トイレでした。で、障害者用のトイレを作つて、トイレが何処にあるかという標示をすることから始めてね。
それはいいんですが、予算がないわけです。医療施設にバリアフリーのお願いに行つたとき、「金を出してくれるか」「出せません」「出来るわけないだろ」「そこをなんとか」と、やっと納得してもらつて。苦勞した思い出がありますね。
条例は今でも生きていて、県民の役に立っているのではないかなと思います。
—— 会長は県の教育長も経験されました。
それが三番目の思い出です。高校再編の時期でした。計画が出た時、実行するのが大変だなと感じました。それをまさか自分でやることになると思ひませんでしたね。高校というのは作るのには簡単なんですけど統合というのになると賛成する人なんていない。
だから、負け戦のしんがりを務めた感じでした。つらかつたですね。反省点もあります。
でも、子供は少なくなつてくる。高校生になれば、いずれ社

会に出て行くための社会性も育てなければならぬ。出来るだけたくさんの方とつきあつてね。するとある程度の学校規模がないといけない。そこで統合が必要になつてくるわけです。
—— 将来公務員を志望する成高生に、公務員の心がけについてアドバイスをお願いします。
企業に比べると、どうしても利潤追求に埋没する部分が出てきます。それに対して、公務員がまず考えるべきことは、「公益」、みんなのためということ。私自身、この点に惹かれて公務員になりました。
公務員の仕事は、イメージほど楽ではありません。私自身も、土日のまつたくない日々が三ヶ月とか、徹夜徹夜の日々が半年とか、忙しさは民間に引けを取りませんでした。
ただ、自分たちのやつていることがみんなのためになる、その思いが苦勞のしがいに繋がつていくのだと思ひますね。
—— 現役の成高生にメッセージをいただけますか？
今の成高生は、洗練されているというか、粒が揃つているというか、もうすこし大粒でもないかなと思ひますね。目標を持って、成高生らしく堂々と生きてもらいたい。成高生は、目が輝いていてほしいと願ひます。

同窓会報に寄せて



校長 澄 上代 眞 澄

九十九同窓会会員の皆さまには、益々ご健勝のことと拝察いたします。また日頃より母校の教育活動に格別のご高配を頂戴し、あつく御礼を申し上げます。

さて、皆さんご承知のことと思いますが、各地区および各団体で定期的に九十九同窓会が開催されております。

平成二十九年度も千葉県庁、千葉県警、東京・八街、横芝・大平（松尾町）の支部に於いて実施された総会並びに懇親会にお招きをいただきました。この場をお借りして、あらためて御礼申し上げます。

それぞれの会に出席させていただき、卒業年度は違えども、いずれの方々も母校成東高校に對する思い入れが大変強いというところをいつも感ずるところです。

第六十六回左千夫短歌大会

夏雲をつらぬく三座はい上がりやと逢えたよああホシガラス ※ホシガラスは高山に棲息する鳥、作者は山岳部所属です。

左千夫賞 二年 水野 三波

その際、学校の近況等お話をさせていただいておりますが、進学状況やご自身が関係した部活動の様子等、熱心に質問されたり、母校に對する要望等で大いに盛り上がりを見せます。そして最後には必ず「水か空かの」で始まる校歌斉唱で閉会となります。

創立以来百十八年の歴史を刻んできておりますが、「質実剛健」の校訓、そして「文武両道」の精神は数多くの卒業生ならびに生徒諸君に脈々と受け継がれてきております。

私事ですが、今年度もましまし退職を迎えます。教職生活の最後を母校で飾ることができ大変感慨深いものがあります。

この間、同窓会員の皆さまには、多大なるご支援、ご協力を賜り誠に有難うございました。あらためて感謝申し上げます。

終わりになりますが、同窓会会員の皆さまには、引き続き、九十九健児のさらなる活躍として母校の発展にお力添えを賜りますようお願いを申し上げますとともに、九十九同窓会の益々の発展を祈念いたします。

観櫻會のお誘い



第十五回卒業学年同窓会

昨年十月十七日（火）、高校第十五回卒業生の学年同窓会が、ホテルポートプラザちばにて開催されました。

お世話になった先生方三名もご列席くださり参加者は八十二名。挨拶を交わすや五十余年の時を飛び越えて心の垣が取り払われ、会場のそここが思い出話で盛り上がり、笑顔の写真もたくさん撮りました。

クラス毎の記念写真も撮影し思い出深い邂逅の一日でした。

成東高校第15回卒業生同窓会



こちらはB組の写真です。前列向かって右より永田昭夫先生、校長代理で出席した江口勝美教頭、青木慶成先生、川鍋光弘先生です。

春を待ちかねていた校庭の櫻が晴れ姿の支度を整えました。厳しい冬を凌いだ今年の花、匂いもひとときと期待されます。四月七日（土）十四時からのオープニングセレモニーでは吹奏楽部の演奏もあります。七日（土）十二日（木）は校庭を開放して皆様のお越しをお待ちしています。午後五時半～七時半の灯りを点した夜桜も見応え十分、年度はじめの慌ただしさに見過ごして来られた方々も、この春は母校へ足を運んでみてはいかがでしょうか。

なお四月七日（土）は校内へ車の乗り入れができません。あの坂道を徒歩でおいでください。

ご寄稿のお願い

同窓生の皆様の交流の場としてお役に立てることが編集部が目指す本誌の在り様の一つです。そこで広くご寄稿を募ることといたしました。つきましては、この度ご著書を寄贈くださった齋藤親載（高3回）氏より戴きましたお便りの内容を抄録して嚙矢といたします。皆様どうぞ揮ってお寄せください。

ご寄稿



想えば遠く懐かしい母校です。貴校に学びましたのは旧制中学から併設中学を経て高校まで。七十二〜六十六年前のことですが、昨日のこのように想起されます。白里町四天木から往復四〇km、六年間の自転車通学距離は地球一周に匹敵します。八十五歳の身でどうにか元気にして居られますのは、偏に貴校の質実剛健な校風によるご指導の賜物と実感しております。

既に現役生活を離れて九年、昨今は自適の生活で、続けおる趣味は音楽です。長らくフルート演奏を嗜んで居りましたが、七年前からオペラ・アリアのテクノロジー歌唱を学び、昨年はサントリ・ホールのステージで「星は光りぬ」（歌劇トスカ）と乾杯の歌（歌劇椿姫）を詠唱しました。

卓球部女子の快挙!

女子団体種目の関東大会、
全日本選手権、ともに本校初



昨年六月に開催された千葉県高等学校総合体育大会卓球大会での学校対抗戦ベスト八を皮切りに、十一月の新人卓球大会では学校対抗戦で第五位となり、関東高等学校新人卓球大会へと駒を進めました。

関東高等学校新人卓球大会は十二月に開催されました。卓球部女子の関東大会出場は本校初であるのみならず、女子団体種目の関東大会への出場は、本校創立以来百十八年間で初の快挙です。

さらにこれらの成果でドイツ・デュッセルドルフ千葉国際卓球交流大会に、一年・近藤

春菜と一年・長谷川紗来が女子シングルの選手として選抜されました。両名は九月十七日、二十三日にドイツへ遠征し、健闘して来ました。

また一月三日〜七日に開催された台湾・桃園市・千葉国際卓球交流大会には一年・安藤愛夢が女子シングルスで出場し、貴重な経験を積んでいます。

そして全日本卓球選手権(ジュニアの部)女子シングルの県予選でベスト八の一年・近藤春菜が、一月十五日より開催された本戦に出場しました。全日本選手権も本校初出場です。

剣道部の朝



部活動が盛んな成高では始業前に練習する部もあるのですが、剣道部の朝は竹刀を熊手や竹箒に持ち替えての清掃活動です。

級友たちが登校してくる坂道、或いは百周年記念館の周りで、部員達は身ごなしも清々しく立ち働いています。夏は照りつける日射しを身に受け、冬は木枯らしに息を凍らせながら。秋には掃くそばから落ち葉の降る中、

淡々と作業を進めます。

誰もが忙しい朝、毎日時間を確保して労するのは容易なことではないでしょう。それでも肩肘張らずに働きながらもう何年も変わらぬ日課としています。

放課後には裂帛の気合い声を発して激しい稽古を重ね、公式戦や遠征に闘志を燃やす彼らが、仲間と共有し後輩へと引き継いできた朝の清掃も、本校剣道部の伝統の一つです。

遠からず花の下にて箒の音が新入生を迎えることでしょう。

▶平成29年度 入試合格数 (延数・抜粋)◀

※この数値は、平成29年3月末に集計したものです。平成30年3月末の集計結果は次号でご報告します。

国公立大学			文教大	3		昭和女子大	2		武蔵野大	6	
大学名	新卒	旧卒	明海大	1	1	成蹊大		2	武蔵野美大		6
弘前大		1	神田外語大	11	1	成城大	1	3	明治大	13	4
山形大	1		淑徳大	8		専修大	4		明治学院大	5	
茨城大	5	1	城西国際大	6		大正大	5	3	立教大	2	3
筑波大		1	千葉工大	26	1	大東文化大	4		立正大	9	1
埼玉大	1	1	千葉商大	4		拓殖大	5		早稲田大	6	3
千葉大	12		帝京平成大	4		多摩美大	1	2	麻布大	1	
お茶の水女子大	1		東京情報大	3	1	中央大	9	2	神奈川大	3	
東京工業大		1	和洋女子大	7	1	津田塾大	1		神奈川歯大		1
東京農工大	1		千葉科学大	6	3	帝京大	3	1	同志社大	1	1
一橋大	1		了徳寺大	3	1	東海大	7		立命館大		1
横浜国立大	1		亀田医療大	2		東京音大		1	関西学院大		2
新潟大	1	1	青山学院大	8	2	東京家政大	5		その他	24	6
山梨大	1		亜細亜大	7		東京女子大	5		私立大 計	454	77
島根大	1		大妻女子大	3		東京電機大	6			新卒	旧卒
鹿児島大		1	学習院大	10	1	東京農大	10		準大学校	1	
前橋工科大	1		北里大	1		東京理大	9	2		新卒	旧卒
高崎経大	1		共立女子大	7		東邦大	18	3	短期大学	4	
千葉保健医療大	2	1	慶応大	1		東洋大	37			新卒	旧卒
長岡造形大	1		工学院大	1	1	二松学舎大	1		専門学校	9	4
愛知県立芸大		1	国学院大	8	2	日本大	44	9		新卒	旧卒
国公立大 計	31	9	国土館大	7		日本獣医生命大	1		専門学校	9	4
私立大学			駒澤大	10		日本女子大	3			新卒	旧卒
大学名	新卒	旧卒	実践女子大	2		日赤看護大	1		公務員	6	
国際医療福祉大	9	1	芝浦工大	6	1	法政大	22	2			
東京福祉大	2		順天堂大	3		武蔵大	3	1			
獨協大	1		上智大	2	1	東京都市大	5				



三年D組 栗田 優

成東高校での毎日は気が付けばあっという間に過ぎ、先輩方の御卒業された一年前もつい昨日の事のようにです。

本当に有意義な三年間だったと、今振り返ってみて強く感じています。さまざまな活動を通して出会った仲間や先生方はみな個性にあふれ、私が憧れるような側面をいくつも持っていました。穏や



千葉大学文学部一年 田中 智章 (高69回)

合格おめでとうございます。陽光やわらかに薫る春の日に、今開かんとする桜花の蕾の如く胸を膨らませる期待を打ち砕くつもりはないけれど、僕が思うに、あまり大学生活に、夢を持ちすぎではありません。

大学には、惰性で生きている人間が沢山います。世は大学全入時代であり、特に千葉大には国公立大卒のブランドの為のみに入学す

誌上往復書簡

今回の往信は推薦入試に合格して入学が内定した在校生です。進学先は千葉大学看護学部です。

かで誰にでも優しい人、密かに努力を積み重ねる人、その場を明るくできる人、適度な休み方を知っている人……誰もが私の「師」でいた。胸の内を感じし、手本にしているうちに、少しずつ自分の個性も肯定できるようになりました。自分の中でのこのような変化は、高校生活において最も顕著に現れた成長の証です。

先日、私達は大学入試センター試験を終え、いよいよ目標に向けて最後のラストスパートをかける局面に差し掛かりました。一足先に面接試験対策をしていた際、私は「自分がどんな人間なのか、ど

う考えているのか、どうしたいのか」と、自分自身を深く理解する事を目標としていましたが、鏡の前に立ち己と対峙する事以上に苦しいものは無いのではないのでしょうか。未来の自分に想いを馳せ、仲間達はまさに今、自分との戦いに挑んでいます。

先輩方はこの一年間、どのような日々をお過ごしでしょうか。皆さんの新たな出会いや変化がある中で、私達よりさらに刺激や発見にあふれた新生活を送られているのでしょうか。

る輩もいますから、当然と言えば当然です。有り余る余暇を浪費し、社会に出たくなーいとモラトリアムにしがみつくと先輩を、僕は何人も見てきました。

そんなところに半年もいると流石に嫌になって来たので、僕は外部に交流を求めました。東京で活動する、とあるプロのピアノリストと知り合いになったのは九月のことです。その方は、おじさんと言つて差し支えない年齢ですが、ライブに行くたび、芸術や表現に関する含蓄に富んだお話を下さります。「ジャンル」というのは表面的なもので、重要なのは理想とする『感動のカタチ』を表現するこ

とだ」とのお話には、はっとさせられたものです。もちろん、学内にも充実した生活を送っている人はいます。そういった人たちとの交流には、自然と襟を正されることも少なくありません。流暢な日本語で太宰治の『人間失格』を熱く語る中国人留学生に会った時には、自らの拙い英語を激しく殴打してやりたくなった程です。

(自戒を込めて) 大学生活は、人を生かしても殺しもあります。頼りになるのは、自分の感覚ただそれのみです。貴方の新しい日々が、幸多きものとなるよう祈っております。

編集後記(第8号) 齊藤 功

春3月、旅立ちと別れの季節となりました。会報第8号をお届けいたします。この時期になりますと今から51年前の春、国語の鶴澤浩(中20回)先生に教えて頂いた唐の詩人王維の「渭城の朝雨軽塵を浥(うるほ)す、客舍青青柳色新たなり」を思い出します。学校というのは実には有り難いもので、この頃覚えたものは直ぐ出てきます。

毎号含蓄のある巻頭言を頂いております清水新次会長が、秋の叙勲で授章されました。それを記念してこれまでの公務員生活を回想して頂きました。取材は前回同様田井中善夫編集委員です。公務員に進むことの多い本校の卒業生にとりましては、巻頭言同様益すること大と存じます。「温故知新」とは、このことでしょうか。前号から始まった「誌上往復書簡」は、国立千葉大学生とそこを目指す在校生の手紙です。なお、前回の齋藤準(高69回)君はめでたく大願を成就して早稲田大学生となりました。この場を借りてお祝いをいたします。その他、記念講演録、各支部活動など多彩な記事をご覧頂きたく存じます。

さて、前号の編集後記に中西

三郎(中14回)先生のお名前を出しましたら、今井秀治(定2回)氏から貴重な写真と書簡を頂きました。初代同窓会長土屋晴氏の顕彰碑「明師良友」除幕記念写真(昭和40年)です。そして今井氏は、中西先生夫妻の媒酌で結婚されました。博覧強記の先生ゆえ長い仲人のお言葉だったことでしょうか。私も長い結婚の祝辞を頂きました。

先頃『同窓會会員名簿』(第29号)が発行されました。ますます同窓会の発展を願わずにはられません。(汀魚)

「成東高校同窓会報」編集部
TEL: 0475-8213171
FAX: 0475-8210144
【編集責任者】
齊藤 功(高22回)
田井中善夫(理数1回・高26回)
多田 達子(高35回)
應塚 宏倫(高58回)